発行日：
2020年3月17日

明治学院大学心理学部　白金心理学会報

さいころ

第12号

会報第12号発行に寄せて

緒方　明子学会長（心理学部長）

ある大学の同窓会は、業種ごとに集まりがあると聞いた。例えば金融、不動産、サービス、教育等である。情報交換やヘッドハンティングも行われているようである。明治学院大学心理学部の卒業生も多様な仕事に携わり、各職場で中堅となっている卒業生も多くなってきた。これからは縦の関係を強めていくことが必要だと思う。そして、縦の関係を構築するためのサポートをするのが白金心理学会の役割の一つだと考えている。

同じ学年の卒業生同士の関係、すなわち横の関係を長く続けることも大切である。同期の結婚式に集まったことをきっかけにして同窓会が開かれることもあるだろう。しかし、長く続けるには、誰かが幹事の役を務めなくてはならない。皆が受け身では存続していかないのである。白金心理学会の総会が、同期会を開くきっかけとなることを願っている。毎年6月に開催される総会を、同期会を開くきっかけとして、積極的に活用してほしい。

緒方　明子先生

大学を卒業して何十年も経つと、学科や部活の同期と連絡がとれているだけでうれしいものである。今は地方に居住する同じ学科で学んだ友人が、学会の会議のために上京するという連絡をしてくれる。東京に住む同期に声をかけて数人でも集まることができると気持ちが暖かくなる。それぞれの職場での出来事や愚痴を話しながら、学生時代を振り返り、思い出を確かなものにしていくことができる。時間を経て集まる時間を重ねることによって、ともに過ごした時間の大切さが改めて分かるように思う。

白金心理学会第13回大会のお知らせ

野村　信威先生（心理学科准教授）

白金心理学会第13回大会は2020年6月7日（日）に明治学院大学白金キャンパスで開催されます。今回の大会でも心理学科と教育発達学科でそれぞれ独自に講演会を企画しています。心理学科では、今年度より着任され臨床心理アセスメントがご専門の滑川瑞穂先生から「臨床と研究から考える描画法」というタイトルで講演していただきます。教育発達学科では「教育発達学科の10年、そしてこれから ―卒業生からのメッセージ―」というタイトルで様々な分野で働く卒業生に登壇を依頼してパネルディスカッションを行う予定です。その他にも2019年度に博士学位を取得された大学院生の先輩による講演や、研究・活動奨励費獲得者による研究成果報告などを予定しています。

第13回大会も午後より総会を開始して夕方には懇親会が終了するスケジュールに設定しており、遠方の方でも参加しやすいように配慮しています。今年度は卒業生の懇親会参加費は無料にさせていただく予定ですので、ご都合の良い方は是非大会にお越し下さい。

白金心理学会は名称こそ学会となっていますが、年に1回開催される大会は卒業生や修了生が母校を訪れて先生方や大学時代の友人たちと旧交を温める貴重な機会となることを願っています。事務局では在校生や卒業生、修了生にとって魅力的な大会になるように工夫を重ねています。

白金心理学会第13回大会

日時：2020年6月7日（日）13：00開始
会場：白金校舎本館（本会場：1255教室
　　その他会場：1251～1254教室）

13：00～ 15：20	総会・奨励事業獲得者研究成果報告 博士学位取得者講演
15：30～ 16：30	学科別イベント（講演会） （心理学科）滑川瑞穂先生「臨床と研究から考える描画法 」 （教育発達学科）卒業生と教員によるパネルディスカッション 「教育発達学科の10年、そしてこれから―卒業生からのメッセージ―」
17：00～ 18：15	懇親会

2019-2020白金心理学会イベント

- 2019年6月16日
  白金心理学会第12回大会：総会、2018年度奨励費獲得者研究成果報告、懇親会　開催
- 2019年11月29日
  在学生部会院生SC
  第28回キャリア支援シリーズ
  「院生とごはん」開催
- 2019年12月21日
  教育発達学科在学生部会SC
  第29回キャリア支援シリーズ
  「教発クリスマスパーティー」開催

目次：

会報第12号発行に寄せて　1
白金心理学会第13回大会のお知らせ　1
第12回大会報告　2
研究奨励事業報告　2
学科別講演会　3
さいころトピック　4
新任教員のご紹介　5
在学生部会SC活動報告　6
事務局よりお知らせ　6

総会

研究奨励事業報告

懇親会

第12回大会報告

野村　信威先生（心理学科准教授）

2019年6月16日(日)に開催されました白金心理学会第21回大会についてご報告します。当日はおよそ60名の教員、卒業生、大学院生を含む在学生にご参加いただきました。第12回大会では午後から総会を開始し、夕方には懇親会が終了するよう従来の大会よりもコンパクトなスケジュールで開催して、遠方の方でも気兼ねなく参加出来るように配慮しました。

総会では例年通りこれまでの事業報告や会計報告に加えて今年度の事業計画案などが報告されました。今年度の研究活動奨励費獲得者による研究成果報告では、6件の研究報告または活動報告が行われました。先輩学生による精力的な研究または活動成果の報告は、学部生にとってはこれから取り組む卒論やゼミ論などの良いお手本になったのではと思います。

第12回大会では前回大会に引き続いて、心理学科と教育発達学科のそれぞれで講演会を企画しました。心理学科では小林麻衣子助手による犯罪心理学に関する興味深い研究成果について、また教育発達学科では2014年度に退職された岩辺泰吏教授による実践活動についてのお話を伺いました。同じ時間帯での開催のためいずれか一方の講演にしか参加できないこと残念ですが、参加者には有意義な機会となったと思います。

学科ごとの講演会に続いて開催した懇親会には、総会と同じくおよそ60名の方にご参加いただきました。懇親会は、緒方学部長や岩辺先生をはじめとする両学科の先生方や卒業生、在学生がそれぞれ直接交流することが出来る貴重な機会となりました。参加された方にはとても満足していただける機会となったのではないでしょうか。

研究奨励事業報告

渋谷　恵先生（教育発達学科教授 ）

白金心理学会第12回大会において、2018年度の研究奨励事業に基づく研究成果報告がなされました。このうち最終的な奨励費獲得者の報告は、下記の通りです。

《研究奨励》

- 「インターネット依存傾向者を対象とした行動変容への動機づけと援助要請態度のサブタイプ別検討」　小澤英里子（心理学専攻：博士前期課程2年）
- 「若年成人世代の未婚乳がん患者とその親との関係に関する質的研究」　代表：水沼香奈（心理学専攻：博士前期課程2年）
- 「教育現場における虐待相談・通告に関する質的研究」　代表：真栄平矢（心理学専攻：博士前期課程1年）他3名

《活動奨励》

- 「発展途上国における学校体育の実態調査―『カンボジアの子どもたちに学校体育の素晴らしさを届けるプロジェクト』を通して―」　代表：制野寛（教育発達学科2年）
- 「地域スポーツの教材的価値―練馬区キャッチバレーボールに着目して―」　代表：田中紗良（教育発達学科2年）＜資料報告＞

（所属・学年はすべて採択時）

2018年度は大学院生から学部生まで幅広い層からの応募があり、心理や教育に関わる様々な研究が行われました。大会時の研究報告においては、卒業生や教員、学部生、大学院生から積極的な質問があり、所属や学年の違いを超えて研究を共有する機会の豊かさを改めて感じた次第です。発表要旨は学会HPにて公開されていますので、ぜひご覧ください。

2019年度研究奨励事業には3件の応募があり、白金心理学会運営委員会で審査を行った結果、全ての応募が審査を通過しました。

《研究奨励》

- 「感情への恐れと体験の回避が離人感・現実感消失症に及ぼす影響」　代表：四方陽裕（心理学専攻：博士前期課程2年）
- 「瞬目の印象への影響－瞬目の多寡と模倣の観点から―」　代表：吉田みなみ（心理学科3年）他10名
- 「ASD傾向の対人距離におけるToMの関連」　代表：箭内陽乃（心理学科4年）

2019年度は活動奨励費の応募はありませんでした。活動奨励費は心理学部に所属する全ての学部生と大学院生が応募することができます。卒業論文や修士論文の作成のための調査・実践はもちろんですが、ゼミにおける研究活動なども含め、積極的にチャレンジしていただきたいと思います。また研究奨励費は卒業生にも開かれています。学会HPにて要項・申請書類などをご確認の上、ぜひご応募ください。

SC活動一覧

4月	フレッシャーズ研修（1年生）
6月	・教育発達学科・心理学科スポーツ交流会（1年生） ・白金心理学会第12回大会　運営補佐
11月	・第28回キャリア支援シリーズ「院生とごはん」
12月	・第29回キャリア支援シリーズ「教発クリスマスパーティー」開催

学科別講演会

心理学科

小林　麻衣子先生（心理学科助手）

本講演では、「犯罪被害者の心理と支援－遺族のトラウマと悲嘆に焦点をあてて」と題し、実際に発生した事件や事故を例に挙げ、これまでの研究成果と共に、トラウマや喪失による悲嘆についてお話をさせて頂きました。

最初に、トラウマ（心的外傷ともいいます）の定義や種類、トラウマ反応として代表的なPTSD（Post Traumatic Stress Disorder:心的外傷後ストレス障害）がどんな症状を呈するか紹介しました。子どもとの死別や性暴力被害は、とりわけPTSD発症のリスクファクターとなります。また、家族を殺人や傷害致死事件で亡くした遺族のPTSD発症率は、かなり高率となり、犯罪被害による影響の重さが示されています。トラウマはその重さから当事者からは語られにくく、さらなる被害の継続を招いてしまう恐れや、正しい診断が受けられなくなってしまうことがあります。トラウマからの回復には、社会の正しい関わり方や理解、周囲のサポートが不可欠です。

次に、自身が行った研究から、犯罪被害者遺族が被害に遭って経験する数々の問題や、社会の理不尽について紹介しました。犯罪による喪失は、遺族に心理的な苦痛だけでなく、経済的な困窮や、日常生活を送ることの困難、社会的な孤立などを生じさせます。こうした遺族の問題に対して、法律や支援体制が整えられてきたのはつい最近のことです。

私がこの研究に取り組んだ背景には、犯罪被害者やその家族の問題について、医学や公衆衛生アプローチではなく、かといって心の問題として心理学的アプローチだけでもなく、社会の制度や社会関係から掘り下げたかったという思いがありました。

無関心がさらに孤立を助長します。まずは知ろうとすること、そして自分でもできることを探すこと、他者の悲しみへの共感を持つことで、少しずつ被害者の視点に基づいた、正義ある社会が実現されると期待しています。

講演会の様子

教育発達学科

岩辺　泰吏先生（元教育発達学科教授）

「眠れぬ夜の教師のために」

教師の喜びと哀しみはコインの裏表のようです。梅雨空の晴れ間のように、笑顔と喜びの日がきたかと思えば、潮が引くように去り、疲労と哀しみの新しい波が襲ったりします。日本の教師の忙しさは世界一と報道されたばかりです。疲れた教師が疲れた子どもを教えている…、笑えない現実です。

私が教師になったのは1967年ですが、1980年代から家庭を巻き込んだ「教育競争の時代」に入りました。暴力非行が内在化し、いじめ、自殺、不登校・登校拒否、そして授業不成立、学級崩壊へ…、複雑な困難が広がっていきました。そのたびに、調査・報告・研修が繰り返されました。総合学習、コンピュータ操作、外国語（英語）、道徳…課題は増えても教師も専門スタッフも増えません。40人の教室で45分の授業で実りある学びが実現できるでしょうか。できたら魔法です。子どものドロップアウト教師の挫折が増えているのは当然です。

私の進めている「読書のアニマシオン研究会」の若い教師が1年間の研修をとって、いまカナダの小学校に入っています。彼が毎日のように会のHP（www.animation-club.net）にレポートを書いていますが、カナダの小学校の主任が日本の話を聞いて、「そんなに働いたら、日本の教師は病気になるだろ？　生徒は学校へ行くのが嫌になったりしないの？」と同情しています。彼は趣味がフィッシングで自分のクルーザーを持っています。休日は家族で過ごします。「8時間は労働に、8時間は自分と家族のために、8時間は睡眠に」というのが、欧米の常識だと話しています。20年後の学校・教師はどうなっているでしょうか。ロボットが授業をリードし、教師はその調整をしているのでしょうか。私は逆です。もっと少人数で多様なスタッフが支え、笑いと会話に満ちているでしょう。人間が人間を育てるのですから。20年後は今日の地続きです。今日をどう変えていくかが明日を決めるのです。

講演会の様子

第29回キャリア支援シリーズ「教発クリスマスパーティー」

12月21日に横浜校舎クラララウンジ、620教室にて「教発クリスマスパーティー」が開催されました。教育発達学科1年生～3年生を対象に、講演会やクイズ大会、お菓子パーティーなどを行いました。講師方のお話を聞き、学ぶ一方、学年をこえての楽しい交流のひとときを持つことが出来ました。

さいころトピック

ポジティブ心理学的介入法

伊藤　拓先生（心理学科教授）

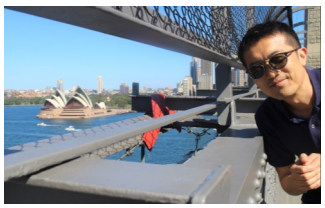
2018年度に特別研究をいただき、オーストラリアのシドニー大学のCaroline　Hunt教授のもと、青年期の抑うつ予防について学び、研究を進めてきました。オーストラリアは以前から、抑うつ予防に国レベルで取り組んでいることで知られています。

予防プログラムには、ある集団の全員を対象にするユニバーサルタイプ、特定の疾患のハイリスク群のみを対象とするセレクティブタイプ、疾患の兆候や症状のある人などを対象とするインディケイティッドタイプがあります。私自身は、ユニバーサルタイプの予防プログラムに関心があるのですが、ユニバーサルタイプの抑うつ予防プログラムの効果の程度は「小さい」ことが示されています。その理由として、そもそも特定の集団全体のうち、一定の期間に抑うつを発症する人は少ないため（日本では、一生のうちに、およそ15人に1人がうつ病に罹患していると考えられています）、プログラムにおける「抑うつ予防の効果」の恩恵を受ける人が限られていることが指摘できます。そのため、青年を対象としたユニバーサルタイプのプログラムを実施する際には、抑うつ予防以外にも恩恵の得られる要素をプログラムに組み込むことが望ましいと考えられます。

そのようなものに、ポジティブ心理学的介入法（Positive psychological interventions: PPIs）があります。PPIsとは、感謝できることを考えさせたり、ポジティブな出来事を思い出させたりするなど、幸福感を向上させる変数に働きかける介入です。そして、ユニバーサルタイプのPPIsは抑うつ予防に対して効果があることに加え、幸福感も向上することが示されています（Sin & Lyubomirsky, 2009）。私はHunt教授とミーティングを重ね、日本人青年にとって効果的なPPIsの研究を開始しました。その詳細はまだお伝えすることができないのですが、将来、青年の幸福感の向上と抑うつの予防の両者に貢献できるようなユニバーサルタイプのプログラムを開発したいと考えています。

引用文献

Sin, N. L., & Lyubomirsky, S. (2009). Enhancing well-being and alleviating depressive symptoms with positive psychology interventions: A practice-friendly meta-analysis. *Journal of Clinical Psychology: In*



在外研究報告

鞍馬　裕美先生（教育発達学科准教授）

2018年度の1年間、大学から在外研究の機会をいただきました。その間、アメリカ西海岸のワシントン州シアトル市にあるワシントン大学教育学部を拠点にして、アメリカの教師教育政策とその効果分析に関する研究を進めました。

ワシントン大学教育学部

教師教育政策といっても、さまざまありますが、特に、教員養成段階の学生の質を高めるための政策や現職教員の質を高めるための政策に関心をもち、研究を進めてきました。具体的には、①学士課程レベルではなく大学院レベルでの教員養成を推進する政策や、それに伴う大学における教員養成プログラム改革に関する研究、②教員免許取得要件としての基礎能力試験およびパフォーマンス評価に関する研究、③優秀教員の認定と推進に関する研究、などが含まれます。特に、②と③に関しては、日本には見られない政策にあたります。

ワシントン州教育省

②について詳述するならば、日本では、教員免許状は課程認定を受けた大学における単位修得がそのまま免許取得につながり、行政が教員養成段階の学生に対して特定の試験や評価を課すことはありません。行政が試験等を課すのは、あくまでも教員採用時のみです。しかしアメリカでは、1980年代以降多くの州が、リーディング・ライティング・数学等の基礎的な知識を問う試験を養成段階の学生に課し、その試験の合格を大学における教職科目の履修と免許取得の要件としてきました。また近年では、教員として必要とされるパフォーマンスを学生が有しているかどうかを見極めるために、教育実習とその記録等に基づき評価するシステムが開発され、多くの州がそうしたパフォーマンス評価への合格を免許取得の要件にしています。

こうした政策が教員の質や教職という職業自体にどのような影響を与えているのか。また、いかなる議論が噴出し、政策の功罪が指摘されているのか。これらを追究する中で、日本における改革への視点を示していくことができればと思っております。

新任教員のご紹介

平子　雪乃先生

平子　雪乃先生　2019年4月より心理学科に着任いたしました平子雪乃（たいらこゆきの）です。これまでは主に医療領域における心理療法と多職種連携によるチーム医療に携わってきました。特に慢性疼痛や突発性難聴などの心理的な要因が影響しやすい身体疾患を抱える方に対する心理援助について、現場での実践とデータに基づく研究の両方から取り組んでいます。臨床実践においても、研究においても、書籍や論文から得られる知識と現場での体験をつなげて考える視点を大切にしています。その視点から、学生のみなさんが興味を持つテーマについて一緒に考え、理解を深めていけたらと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

滑川　瑞穂先生

滑川　瑞穂先生　2019年4月より心理学科の専任講師として着任いたしました滑川瑞穂（なめかわみずほ）と申します。専門分野は臨床心理学で、主に心理アセスメントに関する授業を担当しています。投映法をはじめとする心理検査の実践と研究に関心があります。特に、描画を質的・量的に評価することにより、心理状態や病状の変化を適切に捉えられるよう調査を続けています。また、普段は、クリニックや心理相談室でカウンセリングや検査を行い、より良い援助が行えるよう、日々悩みながら奮闘しています。心理学の幅広さと面白さを学生の皆さんにお伝えできるよう努めていきたいです。これからどうぞよろしくお願い致します。

西園マーハ文先生

西園マーハ文先生　4月に着任しました西園マーハ文です。専門は精神医学で、特に摂食障害や地域での産後メンタルヘルスの仕事に力を入れてきました。病院、研究所、大学とさまざまな場で仕事をしてきましたが、研修医1年目に勤務した病院が心理療法が盛んなところで、心理の先生方のご指導があったことが自分の原点だと思っています。最近は、薬物療法が精神医療の中心になり、援助を求める方のニーズと合わない部分もあるようです。心理職の方々には、ぜひ現場で中心的な人材としてご活躍いただきたく、教育に力を入れていきたいと思います。

　趣味はピアノですが、現代曲が好きなので、好きな曲は難しすぎて絶対全部弾けないというのが永遠のジレンマです。

手塚　千尋先生

手塚　千尋先生　2019年4月に教育発達学科に着任いたしました手塚千尋（てつかちひろ）です。専門は美術教育です。美術（アート）によるコラボレーションを通した学びや育成される資質・能力を研究テーマとしています。研究対象は幼児から大人までさまざまです。「こたえは人それぞれ」とされる美術（アート）の学習特性を踏まえて、学び手の創造性が最大限に発揮される “ワクワクする”学習環境のデザインについて研究しています。教育と福祉をゆるやかにつなぎながら、よりよく生きるための美術教育実践の創出について、皆さんと一緒に考えていきたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

服部　江里子先生

服部　江里子先生　2019年4月より教育発達学科の助手として着任いたしました、服部江里子（はっとりえりこ）と申します。授業補佐等を通して、みなさんが充実した学生生活を送ることが出来るよう、サポートに努めております。私自身は大学卒業後に保育士として勤務し、その後は母校の保育者・教育者養成校で助手をしておりました。明治学院大学でも夢を持った学生のみなさんのお手伝いが出来ること、大変嬉しく思っております。趣味は旅行で、国内海外共に見たことのない景色を見ることが好きです。どうぞよろしくお願いいたします。

第28回キャリア支援シリーズ「院生とごはん」

11月29日に白金校舎2301教室にて「院生とごはん」が開催されました。
心理学科2年生～4年生を対象に、普段接することの少ない大学院生と大学院進学や、生活などについて話す機会をもちました。
イベントには30名ほどの参加者があり、にぎやかな雰囲気の中、自由な交流を持つことができました。

在学生部会SC活動報告

＜心理学科SC＞

在学生部会心理学科では、在学生の支援を目的として活動しています。4月のフレッシャーズ研修では新入生に向けて、在学生の視点から学校生活についてのガイダンスを行いました。ソーシャルスキルトレーニングの一環として都ホテルで食事会を行い、研修終了後に開催した自由参加の相談会にも多くの新入生が集まりました。

7月のスポーツ交流会は2年生が主体となり新入生の中を深められるよう、企画や告知から当日の進行まで尽力し、在学生部会の活動に興味を持ったという声も聞くことができました。ご支援いただきありがとうございました。

＜教育発達学科SC＞

私たち、教育発達学科SCでは、新入生の大学生活充実に向けた支援を行うと共に、在学生の大学生活の充実に向けた支援も実施しております。昨年もフレッシャーズ研修をはじめとした多くのイベントを企画・運営してまいりました。

特にフレッシャーズ研修は、新入生を迎えるにあたり3年生SCを中心にイベントの企画・運営を行い、新入生から非常に満足のいくイベントであったという声を多数いただき、イベントを成功させることができました。

また在学生向けキャリア支援イベントでは、2年生SCを中心に、在学生にとってどのような企画を実施することが良いのかということを熟考し、実施しました。参加者からは、充実したイベントであったという声をいただくことができました。

今後も私たち教育発達学科SCは新入生・在学生が充実した大学生活を送れるよう、支援していきたいと思っております。引き続き、教育発達学科SCへのご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

＜大学院SC＞

大学院SCは2019年11月29日(金）昼休みに「院生とご飯」を開催しました。このイベントでは心理学研究科への大学院進学を検討している心理学部2～4年生の疑問や悩みに大学院生が答えながら共に昼食をとるというものです。今年度は心理学専攻を希望している学部生が多く参加し、にぎやかな会となりました。具体的な質問として多く挙げられたものは「学部生時代にどのように勉強をしていたか」「大学院生の生活について」等でした。大学院生は自分の経験から、後輩に役立ちそうな助言をさせていただきました。限られた時間でしたが、非常に有意義な時間となりました。また、今年度もたくさんのご支援ありがとうございました。

事務局よりお知らせ

○白金心理学会第13回大会のご案内

来る2020年6月7日(日）13:00より白金校舎において「白金心理学会第13回大会」を開催いたします。総会から始まり、2019年度研究・活動奨励費獲得者による研究成果報告が行われ、博士学位取得者講演、その後学科ごとに分かれます。心理学科は滑川先生より「臨床と研究から考える描画法」の講演、教育発達学科は「教育発達学科の10年、そしてこれから－卒業生からのメッセージ－」というタイトルで、卒業生と教員によるパネルディスカッションをしていただく予定です。最後は懇親会にて、在学生、卒業生、教員の垣根なく交流できる場をご用意しました。皆様お誘いあわせの上お越しください。

○教員の動向（2020年度の研究サバティカル制度について）

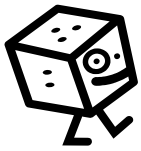
心理学科の杉山恵理子先生、野末武義先生、川端一光先生、教育発達学科の中村敦雄先生は2020年度は出校されませんので、ご注意下さい。

○白金心理学会ホームページ

白金心理学会事務局からのお知らせ、白金心理学会が主催するイベントのお知らせ（在学生、卒業生向け）、広報紙「さいころ」のバックナンバーなどを掲載しています。また、連絡先の変更や大会の申込みなどもホームページで行うことができます。スマートフォンからも閲覧できますので、是非一度ご覧ください。

○卒業後連絡取りやすいメールアドレスのご登録お願いします！

白金心理学会ＨＰより変更可能です。大会や学会情報がニュースレターでお知らせできるよう、ただいま準備しておりますので、ぜひご協力お願いします。



白金心理学会
イメージキャラクター
「さいころくん」

発行：
明治学院大学心理学部
白金心理学会 事務局

〒108-0074
東京都港区高輪3-1-5
明治学院大学高輪校舎15号館
15313号室

TEL＆FAX:
03-5421-5814
問い合わせ用E-mail：
shinro@psy.meijigakuin.ac.jp

白金心理学会ホームページ
URL：https://psy.meijigakuin.ac.jp/shiropsy/